

第3回誇りがもてる美しい都市 分科会 会議要旨

1 開催日時

平成26年2月20日(水) 15時00分～17時00分

2 会場

久留米市商工会館2階 202会議室

3 出席委員

委員8名(五十音順)

池尻登委員、石井俊一委員、大森洋子委員、坂井政樹委員、
津留崎芳春委員、深井敦夫委員、藤田八暉委員、藤田雅俊委員

4 議事

- (1)次期基本計画における重点課題について
- (2)取り組むべき施策や課題、施策(小分類)内容について
- (3)その他

1. 事務局より資料説明

- 事務局より、資料(久留米市都市交通マスタープラン概要版)について説明

2. 議事

(1) 次期基本計画における重点課題について

- 事務局説明

- 藤田雅俊委員

夜間景観、暗くなってからの都市環境や交通環境に問題がある。総合計画には、「外で過ごしたくなるようなまちづくり」と掲げられており、夜間も安心安全に外で活動ができるような整備が必要である。また、公的施設の照明、道路照明など公共空間の照明についての省エネルギー化も非常に大事である。久留米市の場合、どのくらい進んでいるのか。国土交通省では道路照明のLED化、警察庁では交通信号のLED化が進められているが、市としてどれくらい取組んでいくか、安全性の確保という点もあり、非常に重要だという気がする。

もう一つ、ライフラインあるいはインフラストラクチャーについて、大規模災害などでも機能を損なわれない、安全な、交通環境の整備が必要である。また、高齢化や人口集中が進んできたとき、周辺の農村部などのライフラインやインフラストラクチャーをどう維持していくのか。市としても、市民生活の安全を確保しながら、維持負担が少なくなるようにしていかなければならないということ、どう盛り込むか考えていただきたい。ライフラインとかインフラストラクチャーの耐用年数の問題もある。30年から40年経ってきているものもあり、メンテナンスの予算も必要になってくる。それがどういうライフサイクルにあるのか、データを市民に公表していったほうが良いと思う。

- 藤田八暉分科会長

藤田委員から二点、「(2)住み続けたいと思える、住み続けられる地域社会の形成」の中で盛り込んだらどうかということだが、その他はどうか。

- 津留崎芳春委員

誇りがもてる美しい都市づくりをするということなら、道路整備をはじめに持ってこなければならぬのではないかと。生活道路も大事だが、主要幹線道路の外環状線を一番に作らないといけないと思う。

○坂井政樹副分科会長

夜間景観を都市の魅力としてどう整備していくか。また、環境への負荷がかからないような対策をということでは、久留米市でも、防犯灯も含め LED の補助などもしている。

ライフラインやインフラストラクチャーについては、国をあげての国土強靱化という流れの中で、この 10 年間でそういう対応をしていこうとしている。骨子案には、このような点について全く文言が入っておらず、それを重点課題の中でどう盛り込むか整理をする必要があると思う。

■事務局

防犯灯の LED 化を進めており、檜原市長が就任して、新たに 5,000 基ほどの防犯灯を設置したが、その大半は LED 防犯灯である。道路照明も含めた省エネルギー化については、持続する 21 世紀型の部分の低炭素化、という視点での取り組みも必要である。

インフラストラクチャーの耐用年数の話については、公共施設白書の作成を進めており、市民の方にもご理解いただくため、今年度中に作成したいと進めている。その上で人口減少、超高齢社会の中での公共施設の適性配置を進めて行く必要がある。

久留米市が目指すネットワーク型のコンパクトなまちづくりは、中心市街地だけではないため、幹線道路の整備をどうするか、次の 5 か年では、外環状線の次の幹線道路をどうしていくか、問題意識を持って進めていきたい。

○藤田八暉分科会長

その方向で重点課題について整理ができればと思う。

○深井敦夫委員

事務局がいう公共施設というのは箱物のことだと思うが、藤田委員のご指摘はライフラインについてのものであり、それについては、久留米市には筑後川等があり、橋梁が非常に多いため、老朽化が懸念されている。長い橋については、いわゆる長寿命化計画で今後の維持管理、更新、耐震化、必要なものを分類して計画的にやっっていこうということで、長門石橋についてはすでに耐震化工事に取りかかっている。一方、国では橋梁、トンネルだけではなく全分野に渡って計画的に長寿命化に取り組むべきだという議論が進められており、方針までは示されているが、具体的な計画はまだできていない。市としても、社会基盤になるインフラについては、今後維持管理、更新等が重要な課題になってくるので、計画的に対処していく必要があると考えている。その点は、次期計画で取り組むべき課題として、内容を充実させてもいいのではないかと。

○藤田八暉分科会長

久留米市環境基本計画でも重要な施策としている、環境学習、環境教育及び環境啓発の推進について、重点課題で触れてはどうか。国の法律が抜本的に強化されている。

○坂井政樹副分科会長

分科会長の提案は、「持続する21世紀型都市の構築について」のところに、環境教育も含めた文言を入れるべきではないかということか。

○藤田八暉分科会長

そこ、もしくは「(2)住み続けたいと思える、住み続けられる地域社会の形成について」のところでもよい。そういう文言が全くないので、報告書の中でふれるということでもよろしいか。

○藤田雅俊委員

教育というと学校で教えるという感じになってしまうので、「環境に対する啓蒙」くらいの文言ではどうか。

○藤田八暉分科会長

環境学習や環境啓発など言葉が入る工夫していただく。

2. 議事

(2) 取り組むべき施策や課題、施策(小分類)内容について

■事務局より、文案の訂正(2ページ目上から4行目、「表現を→表現に」に変更、その下の第4節の3行目「豊かな自然環境の保全と共生」「快適な自然環境の保全」の順番を入れ替え)と、内容の説明。

○藤田八暉分科会長

現行の基本計画では、道路について、「快適な都市基盤・生活基盤の構築」という節で「幹線道路の整備と生活道路の整備」という表現にしている。幹線道路の整備の中で「市域の拡大に対応して地域内及びその他の地域の公共施設や公共交通へのアクセス改善を目的とした地域内の幹線道路の整備を進め、一体的な交通ネットワークの形成を図ります。」と書かれており、そういった充実が必要であると思う。

○藤田雅俊委員

都心部では、環状線の整備が必要であり、横の交通体系が弱いと思う。企業のことで言えば、ダイハツの開発設計部門を田主丸町のほうに持ってくるという話であり、関連するサプライヤーもかなり入ってきているという話も聞く。田主丸地域は、今まで、割と農業中心に考えられていたが、今後自動車交通も多くなってくるだろう。210号線の横一本しか主幹線がなく、迂回する路線がないのは問題であり、東西方向の幹線道路も考えていかなければならない。

交通体系としては、横と放射状、南北と、その十字のところの交通体系をうまく整理する必要がある。

○坂井政樹副分科会長

人口減少社会の中で、久留米はもっと求心力を増していかなければならないが、今の都市のあり方、都市計画も含めて非常に厳しい環境にあると思う。道路というのはモータリゼーション、交通機関としての道路ではなくて、人の生活に密着している。そういう観点から、安心安全の意味でも将来の構想を考える必要がある。

○藤田八暉分科会長

域内交通と通過交通とを分けて考えなければいけない。域内交通についてはネットワーク化し結節点をつなぐような形が必要。通過交通については市街地の外に移すようにしなければならない。それらの点も併せて、道路体系の整備というものができればと思う。

○大森洋子委員

上津バイパスができたが、それより南では、今でも慢性的な渋滞が改善されていない。ものすごく時間のロス、経済的なロスであると思う。

○藤田雅俊委員

中核都市というのは福岡県南においてなのだろうが、久留米市は、鳥栖や脊振などを含んだ周辺地域に対して、集積した都市機能を持たなければならないと思う。そういう意味で交通体系は非常に大事であるが、佐賀県側に向けて筑後川を渡るというところはまだまだ弱い。

○藤田雅俊委員

市民意見募集の時も、バス、公共交通に関する意見が多かったので、バスをはじめとした公共交通体系の見直しについても一言入れていただきたいと思う。

○藤田八暉分科会長

「総合的な交通体系の確立」のところは、公共交通体系を中心として、ご意見を文案としてどういう表現できるか工夫できればと思う。

○藤田雅俊委員

今の表現では、今あるものを少しいい方向に改善していくという感じだが、もう少し抜本的な見直しを行うということを入れていただきたい。

高齢者が空白地帯に多いというのは、福祉・生活環境の面からも非常に重要なことである。西鉄バスの赤字路線を補填するだけでは解決しないので、コミュニティバスのようなものをどう

いうふうに扱っていくのかということも当然あると思う。城島町などでは、そういうところが必要不可欠である。

○坂井政樹副分科会長

城島町などでは、実証実験もして、今デマンド交通の取り組みを始めているが、実際には利用者が少ない。非常に難しいところがある。

○藤田雅俊委員

中核都市ということ考えると、人が移動するというモビリティの充実は、ひいてはユニバーサルデザインなどにもつながっていくと思うので、久留米市としては、重要度をかなり上位に上げて検討していくべき課題だと思う。

○藤田八暉分科会長

都市交通マスタープランにある「安全な道路空間の整備」、「ユニバーサルデザインの導入」、「安全な交通環境にするための啓発」、「路線バスの再編」、「日常生活を支える新たな交通サービスの導入」、「利便性の高い公共交通の構築」というような考え方を、今回の基本計画にも入れていくということか。

○深井敦夫委員

確かに交通の問題は大事であり、平たく書かずに、「交通体系全体の再構築を考える」というような、多少踏み込んだ、意気込みを表す表現があっても良いのではないかな。

○大森洋子委員

JRの駅の増設の働きかけというのはできないか。

○深井敦夫委員

JR久大本線では、JR久大本線活性化促進協議会などの協力で駅を作った。そのときは、駅舎関係は全て地元でお金を出してもらい、周辺整備は市で行った。そういうルールと、乗降客がどれくらいいるか、また、作った後の維持管理をどうするかということが課題である。

○藤田八暉分科会長

前回、総合的な交通体系の確立のところについては、公共交通体系を中心に書き、幹線道路と環境道路の整備については、「3快適な都市基盤・生活基盤の構築」の中で触れるという整理をしたが、もう少し、公共交通体系の整備や利便性の高い公共交通の構築といった、後の取り組みの検討に反映できるような表現を考えたいと思う。

○藤田八暉分科会長

それではただ今出された意見もふまえ、報告案文を検討したいと思う。具体的な案分の作成については分科会長と副分科会長に一任いただいてもよろしいか。

今日頂いたご意見を整理し、反映させた審議結果報告書の文案を作成し、全体会での報告の前に委員の皆さんに確認していただくようにする。

一任いただけただということ、文案の作成に入りたいと思う。

3. その他

■事務局より、次回全体会の日程調整について説明

4. 閉会

○藤田八暉分科会長より、閉会のあいさつ